資料１

第３回策定検討委員会での主な意見について

【相原エリア】

【委員】
・南斜面の山の活用をしながら街づくりをしたい。（ホタル・果樹農園等）
・八王子や相模原と連携しながら、ハイキングコースを整備すると良い。

【三輪エリア】

【委員】
・市街化調整区域内の緑地に施設が建設できると、里山の活用の幅が広がるかもしれない。
・三輪エリアは飛び地に近い状態であるため、行政の関係で街づくりも難しいところもある。
・三輪の住居があるエリアと寺家ふるさと村の間に未整備の道路区間があり、今後その区間の道路整備はどのようにしていくのか課題がある。
・荒廃した緑地を相続する方もいる。
・暗渠排水が劣化した結果、田が沼状態となり、機械が入らずに困っているとの声も聞いている。

【小野路エリア】

【委員】
・リーディングプロジェクトについて、住民や地域外において情報共有をどのようにするのか課題がある。
・散策コースの整備について、外から来る方向けに駐車場整備や駅からのルートを検討する必要がある。

【委員】
・リーディングプロジェクトの進め方について、地域の方からも理解を得ている里山交流館をうまく利用した方がよい。
・放置竹林の改善が、地域の住環境の向上にもつながる。
・散策路は、地域の方が納得の上、つくることが必要である。
・里山の資源（お茶、竹等）を活用して、お金を生み出すことが必要である。
・人の目が入れば、不法投棄等の問題が解決できる可能性がある。
・何か事業を行う際のスペースがないことが課題である。

【小山田エリア】

【委員】
・地域の課題について、マイナス面の標記も記載してほしい。（土地利用に制限があること。）
・拠点の整備については、地域内外の人にとって良いことである。施設ができることで、小野路宿里山交流館、小山田緑地、小山田の蓮田、鶴見川源流保水の森が線となりつながる。
・ドイツを例に、街中で市民が畑を利用ができるような仕組みがあると良い。

【委員】
・１２～１３年事業が進んでいないため、何か一つでも事業を始めなければならない。
・何か一つ事業を進めるにしても、お金がないとできない。お金を使う際に、何年後に元が取れるのかを見据えることが必要である。
・計画をつくる際、ゾーニングの考え方を取りいれて良いのではないか。全て里山にするのは疑問に感じる。

【委員】
・小山田地域の現状について、農地も多く、里山の原風景を今に残す自然環境豊かな地域です。と記載されているが、実際は異なる。
・里山を戻すことは考えられない。里山の中身を変えて、新たなかたちで、里山を残すことについては賛成である。
・ハード事業が、（仮称）都市づくりのマスタープランに反映されていない。
・市場調査の自由記述がどこにも反映されていない。

【全体】

【委員】
・今後はやれることをしっかりと順番をつけて、地域、立案者、推進者等の関係者も集まり、意見交換しながら進めていく必要がある。

【委員】
・地域交通として、グリーンスローモビリティを活用すると良いのではないか。
・計画の中で実証実験を行い、その結果や取り組み方法を映像で周知すると良いのではないか。
・全国から里山を再利用するためのアイデアを賞金付きで募集してみても良いのではないか。

【委員】
・検討委員会の進め方について、エリアごとに分けて良いのではないか。

【副委員長】
・里山の標記について、誤解されないような書き方をすると良いのではないか。現状を正確に記載する必要がある。
・基本方針１番に里山の魅力を伝えるときているのは、違和感がある。まずは、現状のマイナスをなくすこと。環境を整えることが１番最初とすると良いのではないか。
・計画におけるリーディングプロジェクトの位置づけについて、もう少し記載した方が良いのではないか。

【委員長】
・各エリアと全体について、意見を頂いた。里山そのものの位置づけについて、改めて確認ができた。今日は様々な意見を頂いたので、事務局で手直しや意見を反映してほしい。